

2019年度GSK医学教育事業助成の概要

学会名
日本摂食嚥下リハビリテーション学会
正式名称
多職種連携を实践する人材育成モデル構築事業
医学教育事業の概要
医療者及び対患者コミュニケーションのトレーニングプログラムの提供 コーチングとPX (Patient eXperience) の研修の実施
医学教育事業の対象者
主な医療関係者： <input checked="" type="checkbox"/> 医師 <input checked="" type="checkbox"/> 歯科医師 <input checked="" type="checkbox"/> 薬剤師 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師 <input checked="" type="checkbox"/> その他（理学療法士，作業療法士，言語聴覚士，管理栄養士，歯科衛生士） 対象となる医療関係者の想定人数：50人/年 x 3年=150人。ただし研修プログラムを通して受講者が職場または地域で関わるステークホルダー750人（受講者1人につき5人）にも教育事業は関与する。
医学教育事業の必要性 / 目的
摂食嚥下リハビリテーションは多職種協働による治療とケアを病院から地域まで継ぎ目無く提供する医療・介護の営みであり、誤嚥性肺炎の防止、栄養の改善、QOLの向上等に寄与する。これまで、手術室など目標と作業の明確な場面でのチーム医療研修プログラムはあったが、目標と活動が当事者に大きく左右され地域まで含む多職種協働の研修事業は私たちの知る限りなく、本事業は極めてユニークであると同時に、普及させる価値があると考え。そのためには、実践を通して学び、学びながら現場を改善する取り組みを継続し、ノウハウとデータを蓄積することが重要である。本事業は、そのPDCAサイクルを回すエンジンの役割を果たすものである。
医学教育事業の計画・方法等
【概要】 医療者間及び対患者コミュニケーションのトレーニングプログラムを提供する。 具体的には、コーチングとPXの研修を行う。 【教育形態】 実施形式：集合型トレーニングプログラム（集合研修）、WEB学習支援コンテンツ、1対1オンライン・コーチング 回数：集合研修は全7回（月1回開催、第7回はフォローアップワークショップ）、オンライン・コーチングは全6回（6ヵ月） 時間：集合研修は5時間/回、オンライン・コーチングは45分/回 参加形態：参加者が毎月1回、計6回プログラムを受講し、第7回で事例発表を行う。その間、参加者が学んだスキルを現場で活用するとともに、自身の目標達成に向けてプロのコーチからコーチングを受ける。 集合研修開催場所：東京 講師：コーチ有資格者。なお、前回事業の修了者が自身の体験・成功事例をシェアする時間を集合研修に組み込む。 【カリキュラム】 第1回：コーチング概論・信頼関係を築く 第2回：コーチングスキルアセスメント（開始時評価）の見方・承認・フィードバック 第3回：アカウンタビリティ・提案と要望・コーチングフロー 第4回：コーチングの実践・対患者コーチング・リーダーシップ 第5回：ファシリテーション・コミュニケーションスキルアセスメント（修了時評価）の振り返り・PX概論 第6回：ペイシエントジャーニーマップ・振り返りと修了証授与 第7回：フォローアップワークショップ（事例発表）
医学教育事業の効果の測定方法
1. コーチングスキル 各クールにおいてコーチングスキルアセスメントを集合研修の初期と終盤の2回実施する。自己評価と他者評価との解離に着目して、自身のコミュニケーションを見直し行動できるようにする。 2. PXサーベイ 希望者が自身の施設において実施し、その結果を医療の質向上に活用する。 3. フォローアップ研修での成功事例報告 数値には顕れない効果のnarrativeの部分を記録として残し、学びにつなげる。
医学教育事業の成果に対する情報共有について
1. 本学会学術大会で成果を発表する。 本学会学術大会において本事業の活動ならびにフォローアップワークショップ報告される成功事例を発表する。 2. 医療専門メディアを通して広報する。 3. 「日本摂食嚥下リハビリテーション学会教育委員会（編）：医療コーチングワークブック—対話的コミュニケーションのプラットフォーム、中外医学社、2019」を学会員以外の医療関係者にも周知する。